各班の目指すもの　第1班

図像資料の体系化と情報発信

福田　アジオ（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科・教授）

本プログラムの中で第1班は最も分かりやすい課題を設定している。先ず資料化する対象が図像である。人間は文字を読んだり書いたりしなくても、古くから様々な図像を描いてきた。ラスコーの洞窟壁画や弥生時代の銅鐸の絵などはよく知られているし、現代でも文字にせずに絵画や図に表現することは多い。非文字資料というとき、図像を第一に思い浮かべる人も多いであろう。しかも、拠点である日本常民文化研究所には『絵巻物による日本常民生活絵引』という世界的に類を見ない大きな研究成果がある。この常民研の成果を世界的な共有財産にすると共に、それを継承発展させて現代に意味ある新たな生活絵引きを作り、またデータを提供するのが第1班の研究活動計画である。

したがって、第1班の研究は、『絵巻物による日本常民生活絵引』の成果を継承すると共に、その問題点を検討し、現代に有効な新たな絵引きを作成することを大きな内容とする。先ず継承するという点では、特定の時代の人々（常民、民衆、庶民）の生活の具体相を示す絵画資料を集成し、それを「絵引き」としての窓口から再編成し、編さんすることである。渋沢敬三が字引と対比しての絵引きという用語を作り出し、新しい資料集を刊行したことを継承する。即ち、絵を窓口にして過去の特定の時代の生活を知るのである。しかし、『常民生活絵引』には種々の問題が含まれている。当時の技術でやむを得ないことであったが、絵巻物から模写によって資料化しており、その段階でデフォルメされた面も少なくないと考えられる点、また描かれた事物に与えた名称が描かれた時代の表現もあれば、現代の表現もあるというようにまちまちである点など、いくつも指摘できる。それらの弱点を克服して、現段階で活用可能な絵引きを作り出すことが大きな課題である。

5年間の間に達成できることを明確にしなければならない。第1班の達成目標は、第一に『絵巻物による日本常民生活絵引』のマルチ言語版の編さんと出版である。絵引に付された絵から読み取った解説文を英語訳し、描かれた事物に付された名称を英語、フランス語、中国語、韓国語に訳して、世界的な図像資料にしようとするものである。これは困難を伴う作業であることが最初から予測されている。日本の事物を如何に他の言語に翻訳できるかという大問題が横たわっている。英語にしても、和英

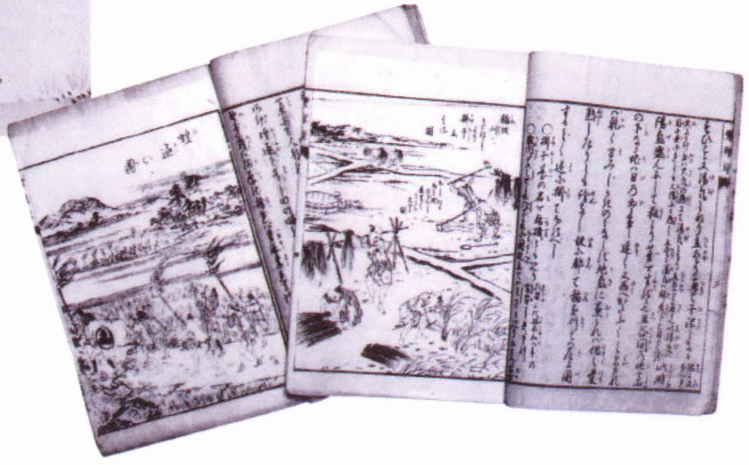
『絵巻物による日本常民生活絵引』

辞典のように日本語に対応する単語に置き換えるだけではできない。そうかといって、事物の内容を説明する文章にしたら長大なものになり、日本語版の大きさにはとても収まらなくなる。研究は始まったばかりであるが、すでに翻訳を巡る諸問題が噴出し、研究会は議論百出の状態である。これを本年度中に集約し、来年度には本格的な翻訳に入る予定である。

第二の達成目標は、5年後に近世・近代生活絵引きの一部を刊行開始することである。近世編と近代編に大きく分けて、各種の刊行物から図像を収集し、図像に名称を与え、さらにその配置全体から意味するところを読み取る作業を進める。近世、近代に書かれた図像は無数といって良い。その中から主として観察や経験によって生活を描いた図像を選び出し、それをデジタル画像化し、描かれた内容を解析して、名称を与え、また描かれた全体を読み取る。そのために、まず最初に取り組むのが、近世・近代に描かれた図像が収録された文献の詳細な書誌データを収集することである。本年度から2年間で詳細な図像文献書誌データベースを完成させ、公開する予定である。その上で、デジタル化する図像文献を決めて、画像を取り込み、資料化を行う。近世・近代生活絵引を構想しているが、五年後に刊行を開始できるのはその第一期ということになろう。

第三の目標は、東アジア生活絵引の編さん作業である。具体的には朝鮮半島と中国の図像資料を収集し、『絵巻物による日本常民生活絵引』と同様に生活の場面を抜き取り、事物に名称を与え、また読み取った内容を解説していく。日本とは異なり、広大な地域であり、資料採集対象も膨大なものがある。それを如何に絞り、如何にデータ化するのかが大きな課題である。地域差も考えなければならない。また日本のような生活を経験や見聞を基礎に描くことも余りなかったとされる。そこで、日本と同様に、先ずは図像文献書誌データベースを作ることからはじめたい。そして、日本の図像に対応するような図像を取り出し、デジタル画像化を進めたい。最初の2年間は書誌データベースの作成を中心とする。また韓国や中国の現地調査によって図像と生活との関係を明らかにしていく。

以上のように、研究班としては三つの課題を掲げ、その達成を目指すが、文章にも「作業」という表現を用いたように、研究開発というよりも、作業という側面が強い。しかし、作業の過程では、様々な問題点を検討し、図像資料の性格を明らかにし、また将来的には欧米の図像についても同様の生活絵引きの作成可能な方法を開拓していくつもりである。日本、東アジア、さらにはヨーロッパやアメリカ、アフリカなどの図像に関する情報を是非とも寄せていただきたいと願っている。

祭りにはしゃぐ子供たち
元禄16年（1703）成立の『四季耕作子供遊戯図巻』
（神奈川大学日本常民文化研究所所蔵）の中の一枚

近世農書に描かれた図像（神奈川大学日本常民文化研究所所蔵）
右：大蔵永常『豊稼録』（農家調宝記続録）稲刈りと掛干の図
左：大蔵永常『除蝗録』（農家調宝記続録）虫送りの図